林原美術館所蔵

大名家の能装束と能面

The Feudal Lord's Noh Robes and Masks
From the Collection of Hayashibara Museum of Art

2018年10月6日(土)～11月25日(日)

前期：10月6日(土)～28日(日)　後期：10月30日(火)～11月25日(日)

※会期中、展示替えがあります

①《白地籬菊模様唐織(しろじまがききくもようからおり)》江戸時代　後期展示

◆展覧会概要

室町時代に成立した能は、江戸時代に幕府の式楽となり、武家のたしなみとして、演能や能の稽古が大名の間で盛んになりました。演能に使われる能装束は、武家の公服や平服がもとになり、桃山時代から江戸時代にかけて、芸能衣装として独自の道を歩み始めます。能の幽玄な世界を表現するため、織や刺繍・摺箔（すりはく）という桃山時代以来の伝統的な加飾技法を用いて、重厚かつ豪華になっていきました。特に大名家では、その経済力を基盤に膨大な数の能装束が、各時代の最高の技術を凝らして作られたのです。

岡山藩主池田家は、二代綱政（1638～1714）の代になり、能が盛んになりました。その池田家の名宝を受け継ぐ林原美術館には、質量ともに優れた同家伝来の能装束が所蔵され、大名家伝来の能装束として代表的な位置を占めています。

本展覧会では、林原美術館所蔵の能装束の名品とともに、藩主などが使用した能面もあわせて紹介します。繊細で優美、彩り豊かな装束の世界をご堪能ください。

渋谷区立 松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

◇展覧会構成

林原美術館の能装束

現在、林原美術館に所蔵されている能装束は1000点にも及びます。これらは備前池田家に伝来してきたものの大部分を占め、池田家における能の実態を示すだけでなく、江戸時代の大名家で保有された能装束の内容とスケールの大きさを示す資料として、重要な文化的価値を持つものです。なかでも、10点所蔵されている桃山時代の能装束は、もともと通常の着衣だったものや、後世に仕立て替えられたものも混在してはいるものの、稀少な遺品であり、7点は国の重要文化財に指定されています。

本展では、そのうち重要文化財4点をはじめ、選りすぐりの能装束36点、鬘帯（かづらおび）40点、腰帯20点、中啓（ちゅうけい）10点、能面15点をご紹介いたします。

※重要文化財4点と能面を除き、前期・後期ですべて展示替えとなります。

1．女役の装束

能装束の中で最も豪華で華やかな装束である「唐織（からおり）」、刺繍（縫）と摺箔（すりはく：箔）が使われていることから名付けられた「縫箔（ぬいはく）」、金糸や色糸で紗や絽に模様を織った袖の長い単の装束「長絹（ちょうけん）」などがあります。

②《白地草花模様縫箔（しろじそうかもようぬいはく）》桃山時代　重要文化財　通期展示

桃山時代に流行した、肩と裾に模様を表すデザイン。女役の能装束は、花や植物文様、蝶や貝、扇や御所車などで、華やかに彩られています。

2．男役の装束

③《白地格子唐獅子龍模様厚板（しろじこうしからじしりゅうもようあついた）》江戸時代　前期展示

男役の能装束には、袖の長い大袖ものでは「狩衣（かりぎぬ）」「法被（はっぴ）」「側次（そばつぎ）」、袖の短い小袖ものでは「厚板（あついた）」などがあり、神体や大臣、平家の公達、軍装や唐人など、役によって用いられる装束の種類が決まっています。

男役の能装束は、雲龍など力強い模様や、輪宝などの仏教にかかわる器物、紋散らしの模様が施されることが一般的です。

3．鬘（かづら）帯・腰帯

鬘帯は、女役がかつらを付けた時に、それを押さえるように締める白い鉢巻状の帯。腰帯は、ほとんどの役に用いられるもので、腰から垂らして使います。

④《虫籠藤花模様腰帯（むしかごとうかもようこしおび）》江戸時代　前期展示

鱗文は鬼女、優美な模様は女役や公達、力強い図柄は武士や鬼神など、役によって使い分けられます。

⑤《鱗模様鬘帯（うろこもようかづらおび）》江戸時代　後期展示

4．中啓（ちゅうけい）

能に使われる扇は、閉じた状態でも先が開いた形をしている点が特徴で、閉じた時に中より先に向かって啓（ひら）いているため、「中啓」と名付けられたと言われています。骨の色（白骨または黒骨）と地紙の絵柄と色で、使う役が決まります。

女性が主人公の演目に用いられる「鷺扇」は特に華やかな意匠が見られます。池田家当主の嗜好を窺うことのできる名品です。

⑥《鷺扇（かづらおうぎ）》(表)江戸時代　前期展示

5．能面

使われる能面も、それぞれの役により「翁面」「女面」「男面」「鬼畜面」「神仏面」などある程度の種類が決まっていますが、その曲だけの「専用面」はあまり多くはなく、異なる演目でも同じ面を使うことが一般的です。

女面の一つで、増女（ぞうおんな）とも呼ばれます。天女や女神の役で用いられ、端正で品位の高い顔つきをしています。

⑦《寶増（ほうぞう）》江戸時代　通期展示

◇会期中イベント

◎記念講演会

①「大名家と能装束 ―文化史的視点から―」
講師：長崎巌氏（共立女子大学博物館館長・家政学部教授）
10月14日（日）午後2時～

②「池田家伝来の能面」
講師：田邉三郎助氏（町田市立博物館館長）
10月21日（日）午後2時～

①、②ともに　＊無料（要入館料）＊各回定員80名　＊当日午後1時から整理券を配布します
＊地下2階ホールにて開催します

◎観世流の謡

出演：上田公威（観世流能楽師）
11月10日（土）午後2時～　地下2階ホール
＊無料（要入館料）＊定員80名（応募者多数の場合は抽選）

＊往復はがきによる事前申込が必要です
＊締切10月19日(金)必着
〒・住所・氏名・年齢・日中連絡可能な電話番号・参加希望人数（2名まで）をご記入のうえ松濤美術館コンサート係まで

◎ワークショップ「紋切りあそび」

折りたたんだ色紙を切り抜いて、花や家紋などのいろいろな文様をつくります
10月28日（日）午前11時～午後3時　地下2階ホール
＊無料（要入館料）＊自由参加　＊材料がなくなり次第終了　＊作業時間：約20分

◎学芸員によるギャラリートーク

10月27日（土）、11月2日（金）、11日（日）　各日午後2時～　約30分
＊無料（要入館料）＊事前予約の必要はありません

◎館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を館員がご案内します
10月12日（金）、19日（金）、26日（金）
11月2日（金）、9日（金）、16日（金）、23日（金・祝）
各日午後6時～　約30分
＊無料（要入館料）＊各回定員20名
＊事前予約の必要はありません

◎11月1日は古典の日！

2008年に源氏物語1000年を記念して制定された「古典の日」。美術館で日本の古典である能を展覧会を通じて学びませんか。
◇来館者全員、入館料2割引き　※割引の併用はできません
◇ワークショップ「紋切りあそび」第二弾開催
詳細はHPをご覧ください

◎特別割引◎　※割引の併用はできません

◆後期リピーター割引　※前期入館時の半券をご提示ください
前期にご来館の方は、後期の入館料2割引き

◆着物割引
着物を着てご来館の方は、入館料2割引き

渋谷区立 松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

◇開催概要

展覧会名　林原美術館所蔵　大名家の能装束と能面
The Feudal Lord's Noh Robes and Masks: From the Collection of Hayashibara Museum of Art

会期　2018年10月6日(土)～2018年11月25日(日)
前期:10月6日(土)～28日(日)　後期:10月30日(火)～11月25日(日)

開館時間　午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
※金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで)

入館料　一般1000(800)円、大学生800(640)円、高校生・60歳以上500(250)円
小中学生100(80)円
＊(　)内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料
＊土・日曜日、祝休日は小中学生無料
＊毎週金曜日は渋谷区民無料　＊障がい者及び付添の方1名は無料

休館日　月曜日(ただし、10月8日は開館)、10月9日(火)

主催　渋谷区立松濤美術館

特別協力　林原美術館

監修　長崎巌(共立女子大学博物館館長・家政学部教授)

会場　渋谷区立松濤美術館　〒150-0046　東京都渋谷区松濤2-14-14
電話: 03-3465-9421　HP: http://www.shoto-museum.jp/

交通案内

●京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分

●JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

※駐車場はございません。

◇次回展のご案内

「終わりのむこうへ:廃墟の美術史」
2018年12月8日(土)～2019年1月31日(木)

報道関係のお問い合わせ

広報担当　吉井(yoshii@shoto-museum.jp)
西　(nishi@shoto-museum.jp)
展覧会担当:清水(shimizu@shoto-museum.jp)
大平(ohira@shoto-museum.jp)
電話: 03-3465-9421　FAX: 03-3460-6366

＊　画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。
＊　画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとしてください。
＊　画像のご利用後、データは破棄してください。
＊　基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
＊　掲載後、見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。

渋谷区立 松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART